

## 意見陳述

2010年6月22日

1 夫は鉄鋼工場を経営していました。私は夫とともに必死に働き、経営を支えてきました。

しかし、私が54歳のころ、夫は脳梗塞で倒れ働けなくなりました。

工場は閉鎖し、私は夫の面倒をみながら、工場やゴルフ場で働き、家計を支えました。

69歳の時、私はまだ働きたかったのですが、職を失いました。既に貯金はなく、年金も納付期間が少し足らず、生きていくためには生活保護を受けざるを得ませんでした。

2 当初老齢加算がありましたが、生活保護での生活では、生活に余裕はありませんでした。

恥ずかしいとは思うのですが衣服はあとまわしになり、下着以外は殆ど購入できません。

食事も質素です。食材は特売日や閉店日に購入します。

クーラーは、購入せずに辛抱しています。テレビは、いまだに昭和57年製でチャンネルリモコンがついていないものを使っています。扇風機も拾ってきたものです。ガスヒーター、冷蔵庫、電子レンジも、15年以上使っています。

建物は古く、ふすまや障子はかなり破れていますが、補修する余裕はありません。広告を貼ってしのいでいます。

私が住む有野団地は、神戸市街に出ていくには交通の便が悪い所にあります。神戸の市街地に出るために一番便利な神戸電鉄の電車代はとても使えません。そこで、本数も少ないけれども、無料で乗れるバスを利用せざるを得ません。